

新有権者等若年層の政治選挙に関する意識調査（参院選前調査）について

明るい選挙推進協会では、第24回参議院議員通常選挙を控え、18歳、19歳の新有権者をはじめとする若者の政治意識を探るため、全国の15歳から24歳の男女3千人を対象に、インターネット調査を実施しました。調査の概要は以下のとおりです。次頁以降に主な調査結果を紹介しています。（調査実施6月15日から6月20日）

調査結果要旨

○「18歳、19歳の人も投票できるようになることの評価を尋ねたところ、「良かった」、「どちらかといえば良かった」の肯定的意見は46.9%、「どちらかといえば良くなかった」、「良くなかった」の否定的意見は33.1%であった。1年前の調査結果とほとんど同じだった。

○18歳以上の人に、7月10日（日）に行われる参議院選挙への投票参加意欲（選挙に行くかどうか）について尋ねたところ、「行く」、「たぶん行くと思う」と回答した人は62.1%、「たぶん行かない」、「行かない」と回答した人は37.8%であった。

○「たぶん行かない」、「行かない」と答えた人に対し、投票に行かない理由を尋ねたところ、「面倒だから」、「選挙にあまり関心がないから」、「どの政党や候補者に投票すべきかわからないから」という政治・選挙への無関心、知識や情報の無さを選択した人が多かった。

○18歳以上の人に、親と一緒に住んでいない人に、現在住んでいる市区町村に住民票を移しているかどうか尋ねたところ、18歳、19歳で「移している」と答えたのは、それぞれ30.3%、28.0%に過ぎなかった。大学生（大学院生、短大生、予備校生等を含む）で「移していない」と答えたのは、昨年調査より若干減少したが、なお、62.4%を占めた。

○現在住んでいる市区町村で投票するには、住民票を移してから3ヶ月以上住んでいなければならないが、18歳以上の人に、このことを知っていたかどうか尋ねたところ、知っていた人は36.2%に過ぎなかった。

○全員に、国、都道府県、市区町村の政治への関心の有無について聞いたところ、「非常に」+「ある程度」関心がある人は国が52.1%、都道府県が47.6%、市区町村が44.1%であった。政治的関心の有無は投票参加意欲に大きく影響していた。

○全員に、自分の生活と政治は関係しているかどうか聞いたところ、57.0%の人が「非常に」+「ある程度」関係していると回答した。この認識の違いは、投票参加意欲に大きく影響していた。

○全員に、ふだん支持している政党があるかどうか尋ねたところ、「支持している政党がある」人は7.4%、「好ましいと思っている政党がある」人は14.8%で、「ない」人が57.0%、「わからない」人が20.8%であった。支持政党の有無は、投票参加意欲に大きく影響していた。

○全員に、現在の生活への満足度を尋ねたところ、56.6%の人が「大いに」+「だいたい」満足していると回答した。同じく現在の政治への満足度については17.6%の人が「大いに」+「だいたい」満足していると回答した。生活への満足度、政治への満足度が高いほど投票参加意欲も高かった。

○全員に、親御さんの投票について行ったことがあるかどうか尋ねたところ、52.8%の人が「ある」と回答した。この体験の有無は、投票参加意欲に大きく影響していた。

○全員に、家族、友人と政治の話をするところがあるかどうか尋ねたところ、家族とは「よくある」が7.9%、「ときどきある」が32.8%で計40.7%の人があると回答した。一方、友人とは「よくある」が3.6%、「ときどきある」が20.7%に過ぎなかった。家族との話の頻度、友人との話の頻度は投票参加意欲に大きく影響していた。

○18歳以上の人の中で今年3月の時点で高校生だった人に、模擬投票・模擬選挙の授業があったか、又は授業等で選挙について説明があったか尋ねたところ、選挙について説明があったと回答した人は51.1%、模擬投票・模擬選挙の授業があったと回答した人は24.2%であった。模擬投票・模擬選挙の授業の有無は、投票参加意欲に影響していた。

1 調査対象モニター基礎情報

(1) 性・年齢別モニター数

	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	合計
男性	97	154	157	172	182	126	154	164	153	174	1533
女性	90	202	163	132	137	122	146	157	139	179	1467
合計	187	356	320	304	319	248	300	321	292	353	3000

(2) 居住エリア別モニター数

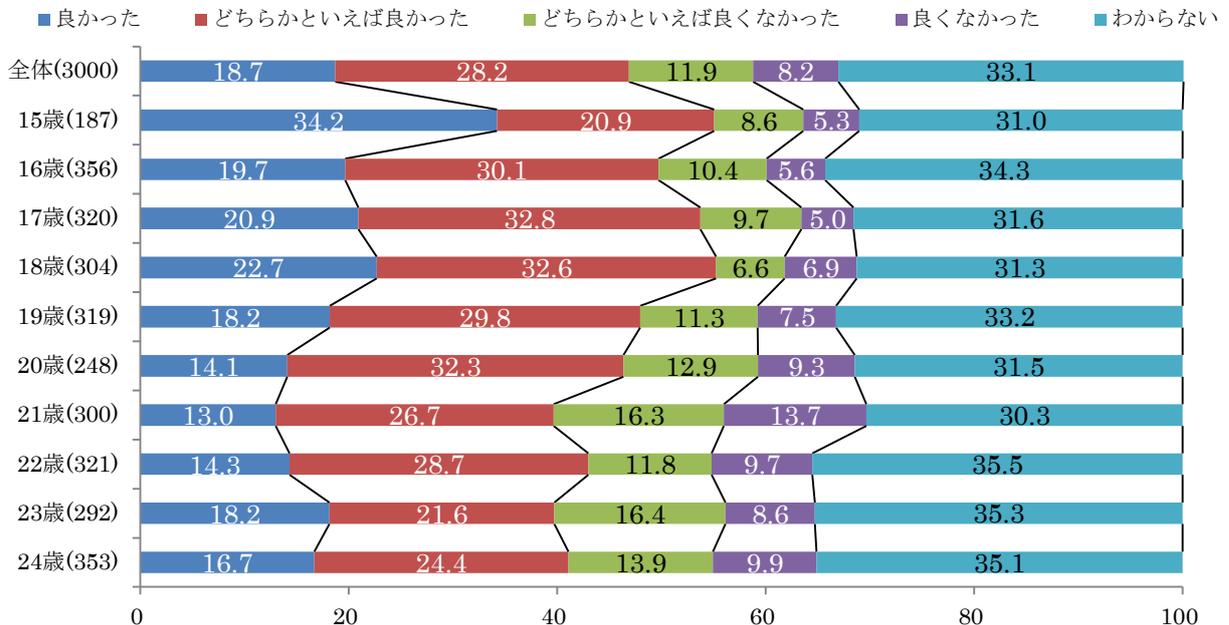
	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	合計
北海道	4	15	12	11	15	10	10	10	13	15	115
東北	16	37	18	15	16	13	13	27	18	19	192
関東	19	27	19	14	11	10	13	19	17	26	175
京浜/一都三県	42	93	91	87	103	83	107	110	87	106	909
北陸	10	22	21	17	15	10	18	16	10	19	158
東海	25	38	41	40	38	26	37	29	47	40	361
京阪神	33	60	53	54	55	52	48	53	47	62	517
中国	11	18	22	18	15	15	11	17	18	20	165
四国	5	9	5	11	12	6	8	8	6	8	78
九州	22	37	38	37	39	23	35	32	29	38	330
合計	187	356	320	304	319	248	300	321	292	353	3000

2 主な調査結果

① 昨年、選挙権年齢がこれまでの「20歳以上」から「18歳以上」に引き下げられました。来月7月10日に行われる参議院選挙から18歳、19歳の人も投票できるようになります。あなたは、このことをどう思いますか。

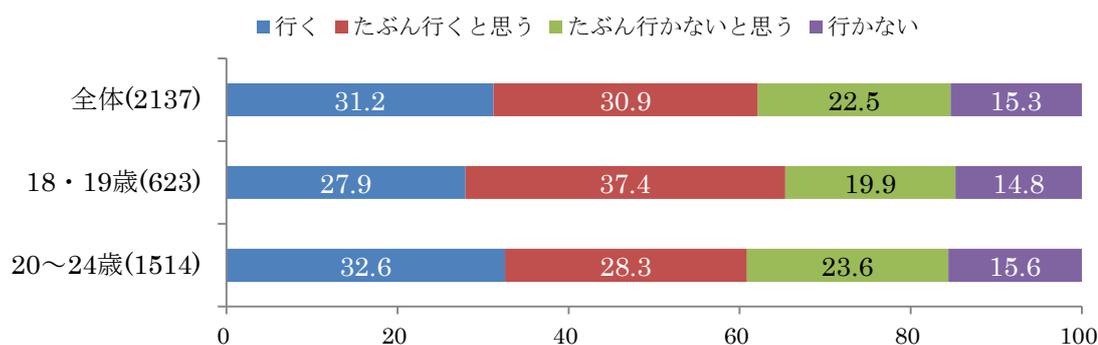
全体では、「良かった」+「どちらかといえば良かった」の肯定的意見が46.9%、「どちらかといえば良くなかった」+「良くなかった」の否定的意見が20.1%、「わからない」が33.1%となった。年齢別に見ると15歳、17歳、18歳は、肯定的意見が過半数を超えている。総じて10代に比べ20代の肯定的意見は少ない。

選挙権年齢の引き下げが実現した直後の昨年6月に行ったインターネット調査(15歳～24歳の3,000人、以下「2015調査」という。)では「選挙権年齢が『18歳以上』に引き下げられたことに、賛成ですか、反対ですか」と尋ねたが、その時の調査結果(賛成46.6%、反対20.4%、わからない33.0%)とほぼ同じ結果であった。1年経過したが、肯定的意見は特に増加していない。



② あなたは、7月10日（日）に行われる参議院選挙に行きますか（期日前投票も含みます）。現時点のお考えをお答えください。

第24回参院選の有権者、すなわち7月11日に18歳以上と回答した人(2137人、以下「18歳以上の人」という。)に尋ねた。「行く」と回答した人は全体で31.2%、「たぶん行くと思う」を含めると62.1%であった。これを18・19歳の新有権者と20～24歳に分けて見ると、「行く」と回答した人は、20～24歳が多い(18・19歳27.9%、20～24歳32.6%)が、「たぶん行くと思う」まで含めると18・19歳が若干上回った(18・19歳65.3%、20～24歳60.9%)。



③ 投票に行こうと思わないのはなぜですか。次の中からあなたの考えに近いものをいくつか選んでください。

上記②の質問で「たぶん行かないと思う」、「行かない」と回答した人(809人)に尋ねた。いくつかの選択肢を揚げ、該当するものをいくつか選んでもらったが、「面倒だから」が最も多く、次いで「選挙にあまり関心がないから」、「どの政党や候補者に投票すべきかわからないから」となった。いずれも政治・選挙への関心の無さ、情報・知識の無さに関わる項目である。

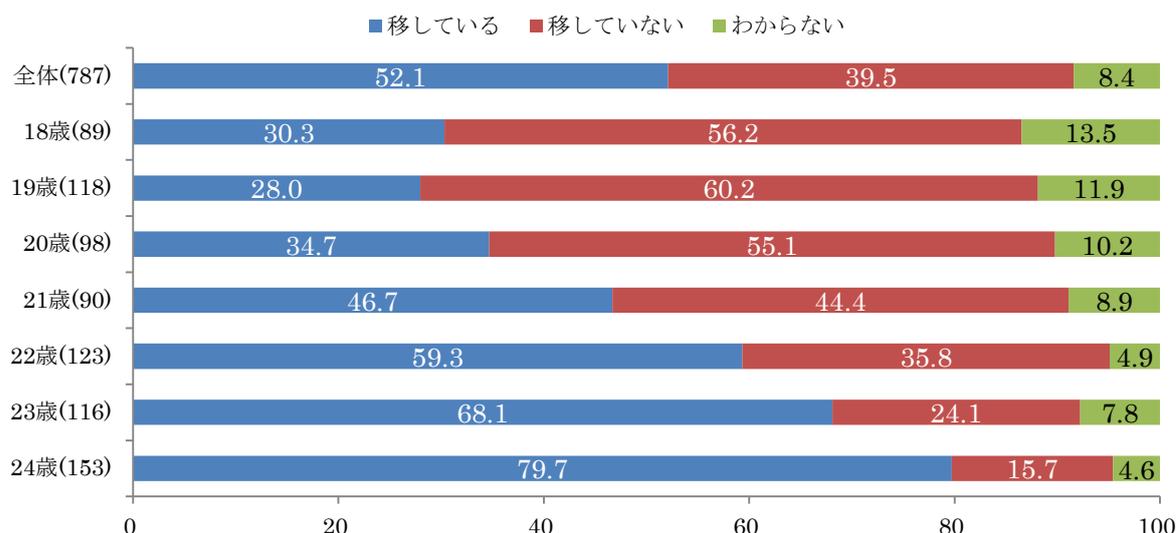
新有権者である「18・19歳」と「20～24歳」に区分けして比較してみたが、上位3つの選択肢は変わらなかった。

	全体(809)	18・19歳(216)	20～24歳(593)
どの政党や候補者に投票すべきかわからないから	③23.7	③21.3	③24.6
選挙結果がどのような影響をもたらすかわからないから	8.2	4.6	9.4
私一人が投票してもしなくても世の中は変わらないから	19.8	12.0	22.6
政治がよくわからない者は投票しない方がいい	15.5	13.4	16.2
今の政治を変える必要がないと思うから	2.0	1.4	2.2
選挙によって政治は良くなると思うから	21.0	14.8	23.3
選挙にあまり関心がないから	②29.2	②23.6	②31.2
面倒だから	①32.0	①26.4	①34.1
その他	12.1	14.8	11.1
わからない	18.8	21.3	17.9

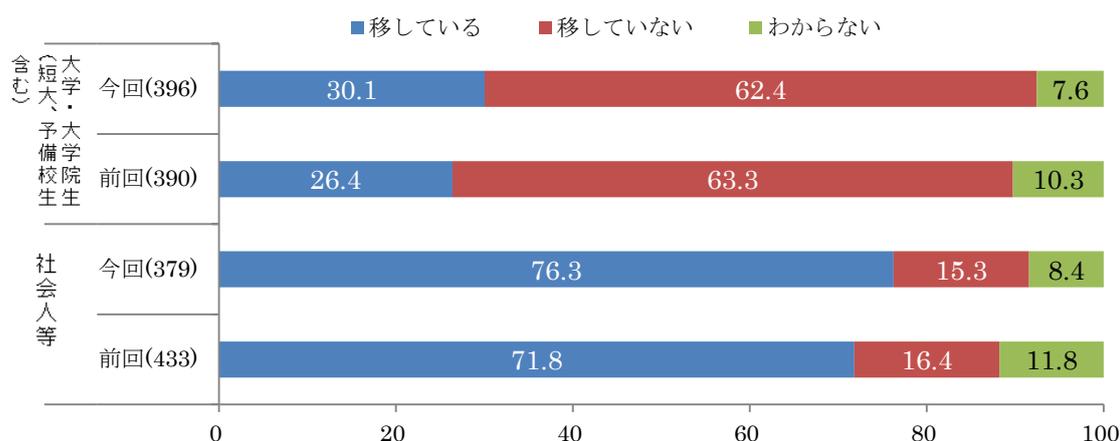
④ あなたは、現在あなたが住んでいる市区町村に住民票を移していますか。

18歳以上の人に、まず「親御さんと一緒に住んでいますか」と尋ね、一緒に住んでいないと回答した人(787人)に「移している」、「移していない」、「わからない」の中から1つ選んでもらった。

年齢別に見ると新有権者となる18歳、19歳は、30.3%、28.0%しか移していない。年齢が上がるにつれ、移している人は増えていくが、24歳でも「移している」は79.7%に止まる。

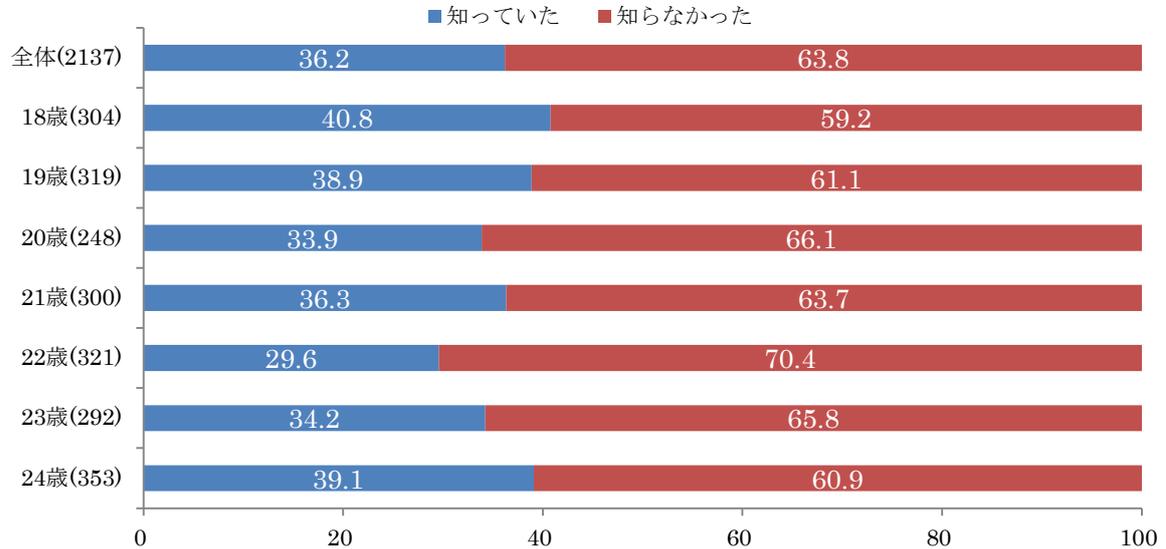


住民票の移動状況は2015調査でも行っている。調査対象者を身分(校種等)別に区分して昨年との対比を見ると、「移している」人は、「大学・大学院生」、「社会人等」ともに昨年よりわずかながら増えているが、「大学・大学院生」はなお62.4%が「移していない」と回答している。



⑤ 現在住んでいる市区町村で投票をするには、住民票を移してから3ヶ月以上住んでいなければなりません。あなたは、このことをご存知でしたか。

18歳以上の人に尋ねた。全体では、「知っていた」のは36.2%にすぎず、63.8%の人は「知らなかった」と回答した。年齢別に見ると特に20～23歳の認知率が低い。



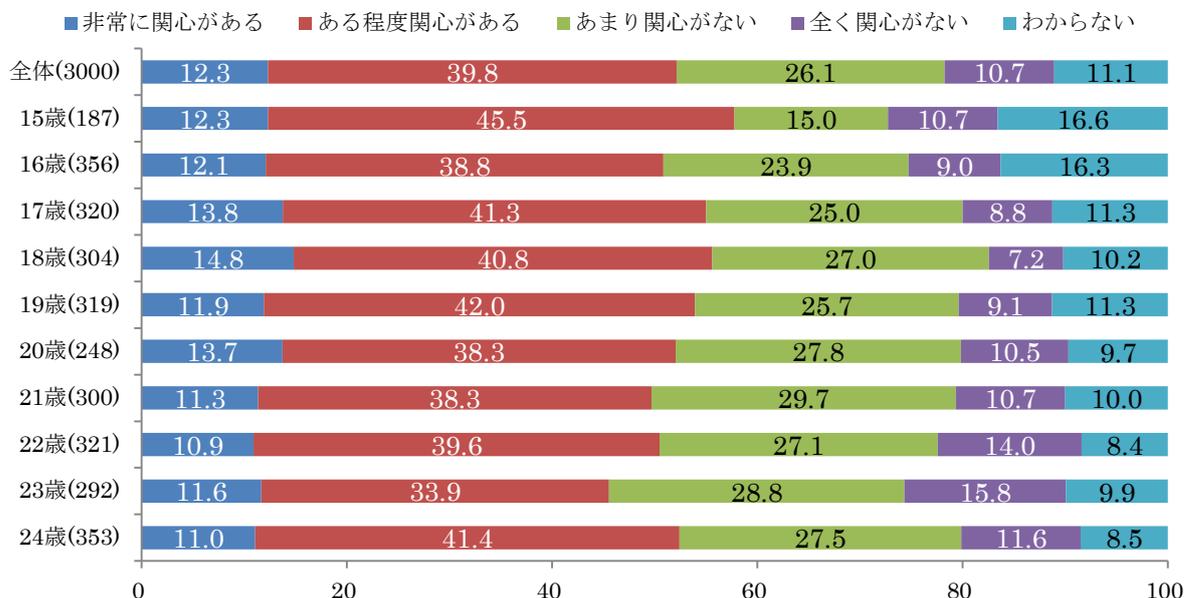
⑥ あなたは、国や地方の政治にどの程度関心がありますか。

政治への関心を、国、都道府県、市区町村とレベルごとに調査対象者全員に尋ねた。

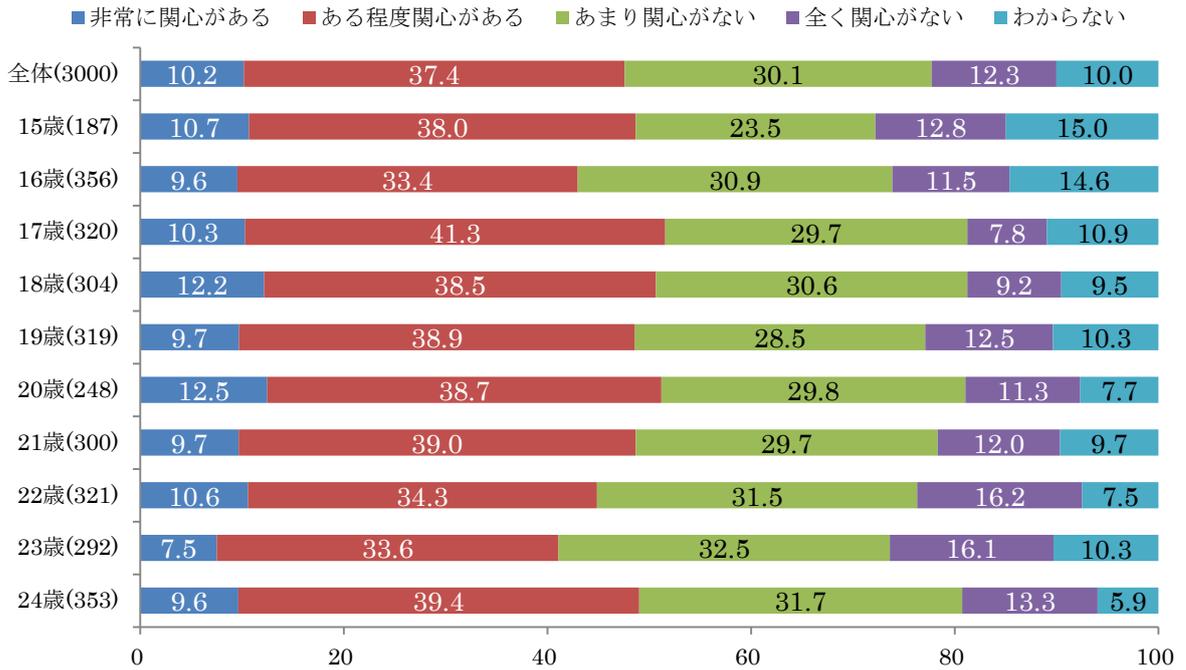
全体で見ると、関心がある層（非常に+ある程度）は、国 52.1%、都道府県 47.6%、市区町村 44.1%で、国が最も高く5割を超えた。年齢ごとにバラツキはあるが、17、18歳は相対的にいずれも高い。15、16歳は他の年齢に比べ「わからない」が多い。

2015調査では「あなたは国や地方の政治にどの程度関心がありますか」と尋ねたが、このときの関心がある層（非常に+ある程度）は、全体で45.2%であった。

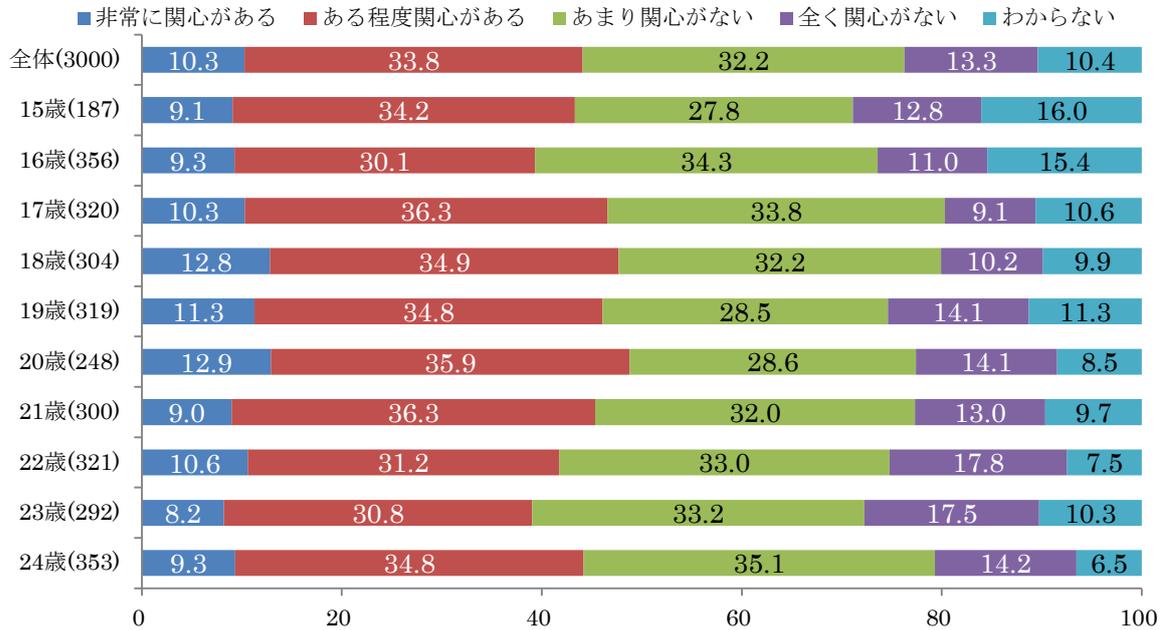
ア 国の政治への関心



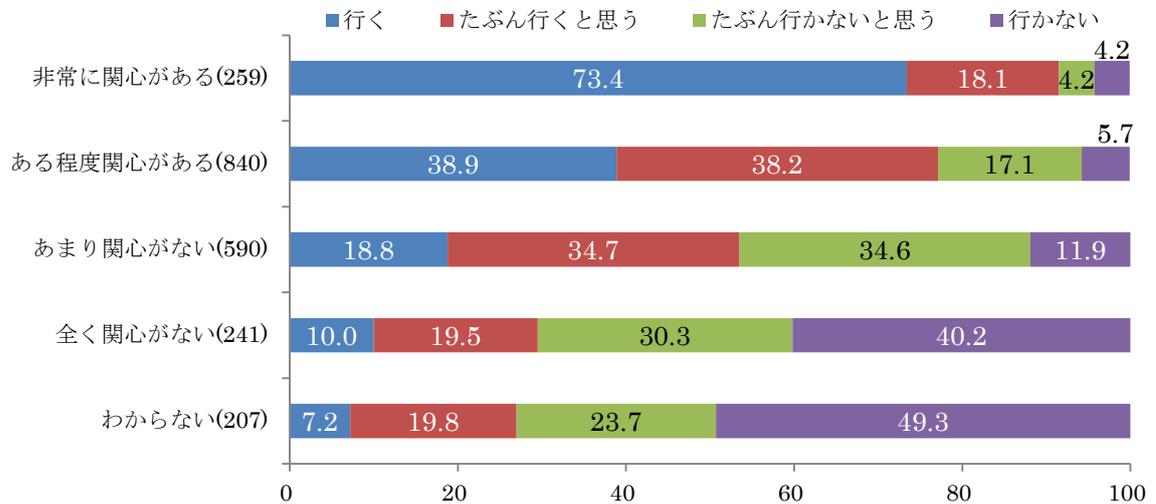
イ 都道府県の政治への関心



ウ 市区町村の政治への関心

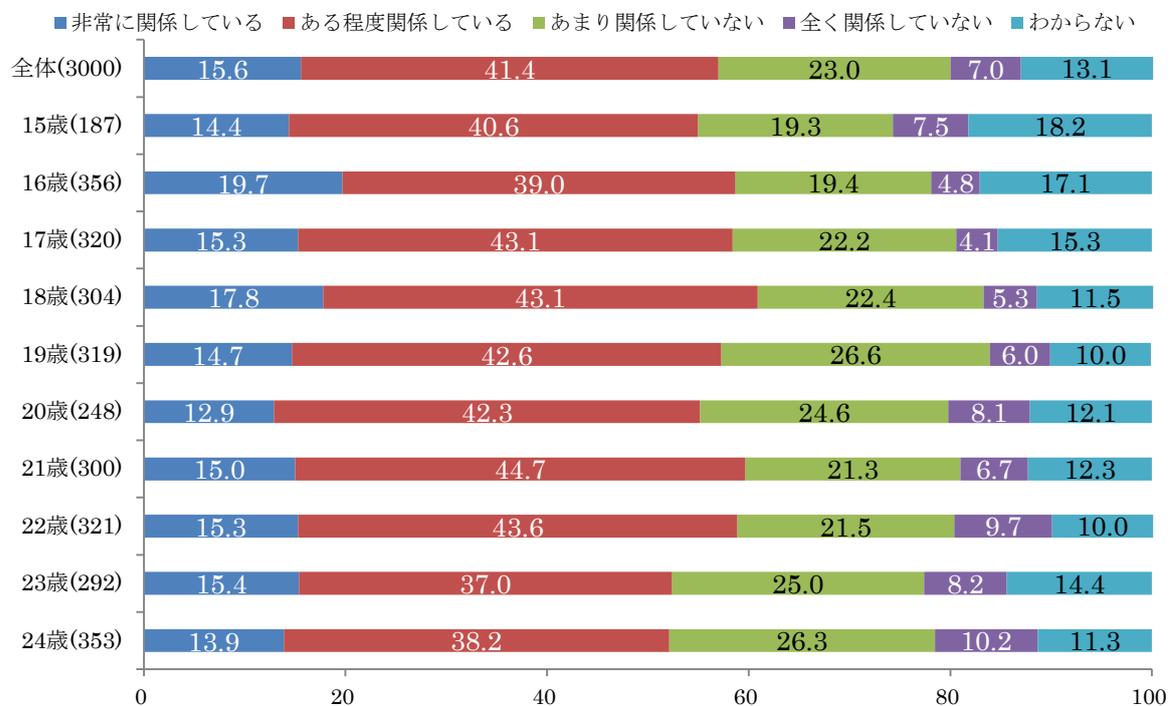


18歳以上の人について、国の政治への関心の度合いと今回の参院選への投票参加意欲の関係を見ると、下図のように、関心の度合いによって大きな違いとなった。政治への関心の有無が投票参加意欲に大きく影響していることがわかる。

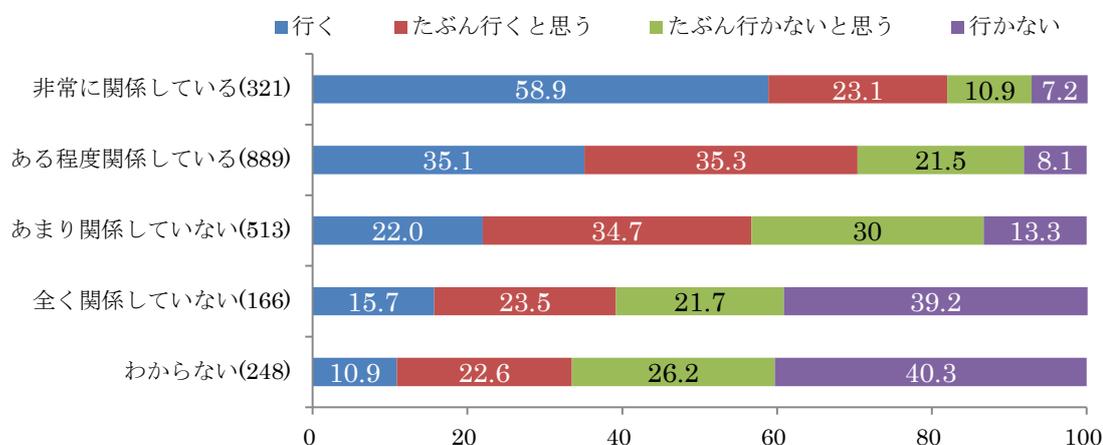


⑦ あなたは、自分自身の生活と政治とはどの程度関係していると思いますか。

調査対象者全員に尋ねた。「非常に+ある程度」関係していると回答した人は57.0%であるが、「あまり関係していない」+「全く関係していない」と答えた人が3割を占めた。



18歳以上の人について、生活と政治は「非常に関係している」と思う人、「全く関係していない」と思う人等の区分で、今回の参院選への投票参加意欲を見てみると、下図のように投票参加意欲に大きな違いがあった。



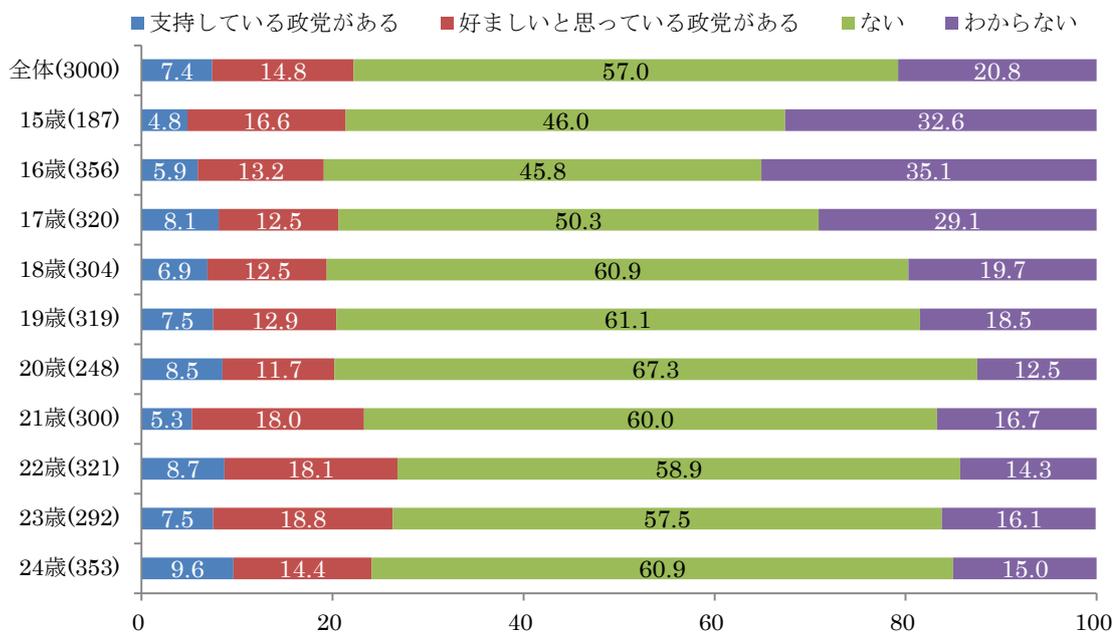
⑧ あなたは、次の政策のうち、何に関心がありますか。(回答は3つまで)

調査対象者全員に尋ねた。いくつかの選択肢をならべ、3つまで選んでもらったが、最も関心を集めたのは「教育・子育て(34.7%)」、次いで「景気対策(30.5%)」、「年金(29.9%)」であった。年齢によって3つの層に区分して見ると、年齢が高くなるに連れて、「特にない」が少なくなっている。上位3つは各年代とも同じであるが、3つの項目とも年代が高くなるに連れて多くなる。特に「年金」は、20～24歳で急増し、第1位となっている。

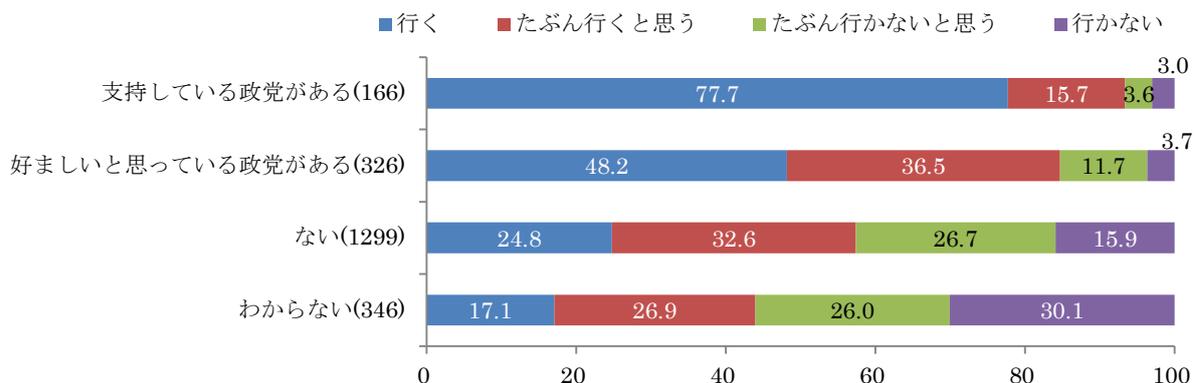
	全体(3000)	15～17歳(863)	18・19歳(623)	20～24歳(1514)
年金	③29.9	③20.4	③25.8	①36.9
医療	20.6	18.5	16.1	23.7
介護	8.9	7.2	8.3	10.1
安全保障	15.4	15.6	18.3	14.1
憲法改正	15.8	19.8	18.3	12.5
教育・子育て	①34.7	①32.2	①34.7	②36.1
地方創生	8.5	6.0	8.3	10.0
景気対策	②30.5	②24.6	②32.3	③33.2
雇用対策	19.9	13.4	19.3	23.9
男女共同参画	6.1	5.9	7.1	5.8
原発・エネルギー問題	12.7	16.3	13.3	10.4
防災対策	9.2	11.5	6.7	8.9
その他	1.7	1.2	1.8	2.0
特にない	17.0	22.5	16.2	14.1

⑨ あなたは、ふだん、支持している政党、または支持するまでにはいかないが好ましいと思っている政党がありますか。

調査対象者全員に尋ねた。全体では「支持している」又は「好ましいと思っている」政党があると回答した人は 22.2%で、57.0%の人は「ない」と回答した。年齢別で見ると、17 歳以下は「わからない」と回答した人が多い。



18 歳以上の人について、「支持している政党がある」人、又は「好ましいと思っている政党がある」人と「支持している政党はない」人に区分けして、今回の参院選への投票参加意欲を見ると、下図のようにその違いは大きく、「支持している政党がある」人の投票参加意欲は極めて高い。

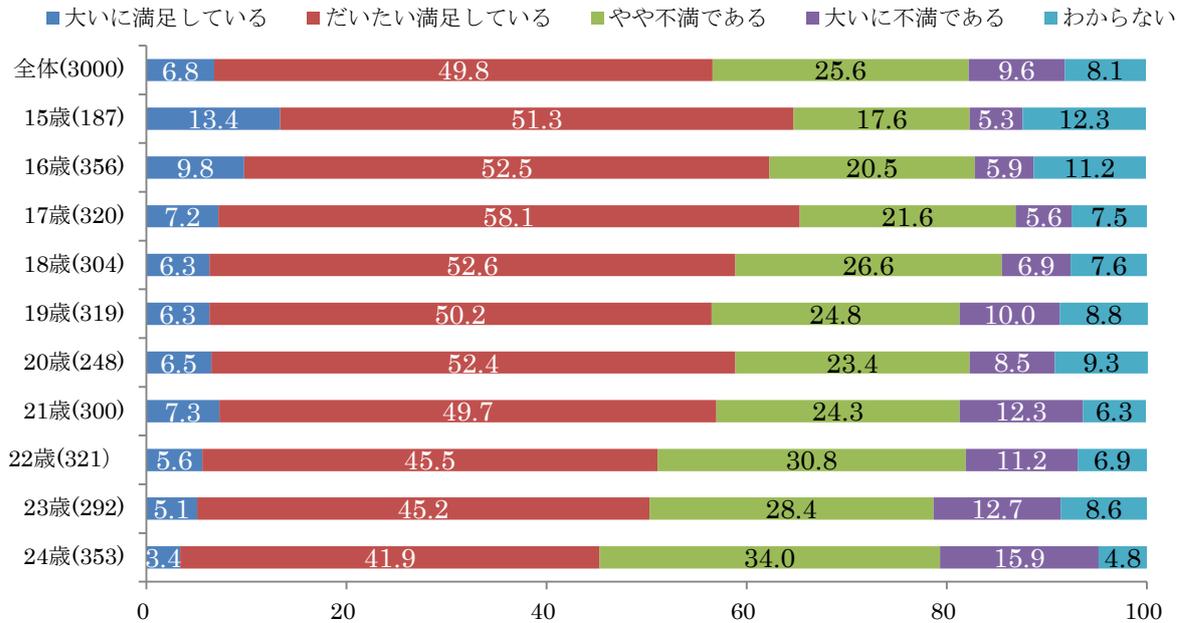


⑩ あなたは、現在の生活・政治にどの程度満足していますか。

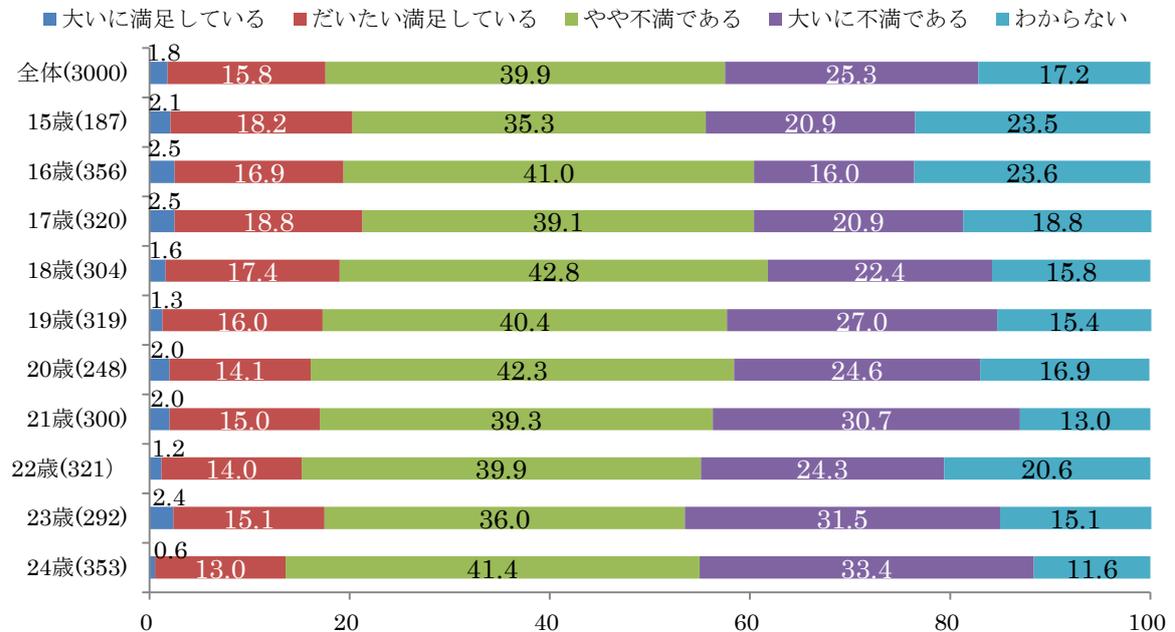
調査対象者全員に尋ねた。現在の生活に「大いに」+「だいたい」満足している人は 56.6%、と過半数を占めた。年齢が高くなるにつれて「満足している」人は少なくなっている。

一方、現在の政治に「大いに」+「だいたい」満足している人 17.6%にすぎなかった。これも、10代より 20代の方が「満足している」人は少ない。

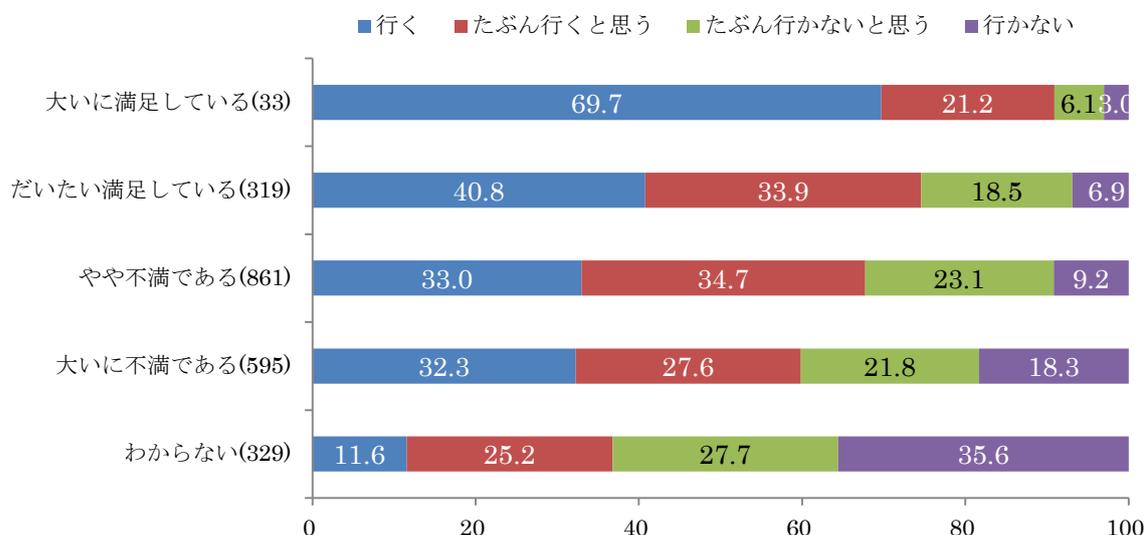
ア 生活満足



イ 政治満足



18歳以上の人について、現在の政治に「大いに満足している」人、「大いに不満である」人等の区分で、今回の参院選への投票参加意欲を見てみた。「大いに満足している」人の投票参加意欲は高く、満足度が低下するにつれて投票参加意欲は低下している。

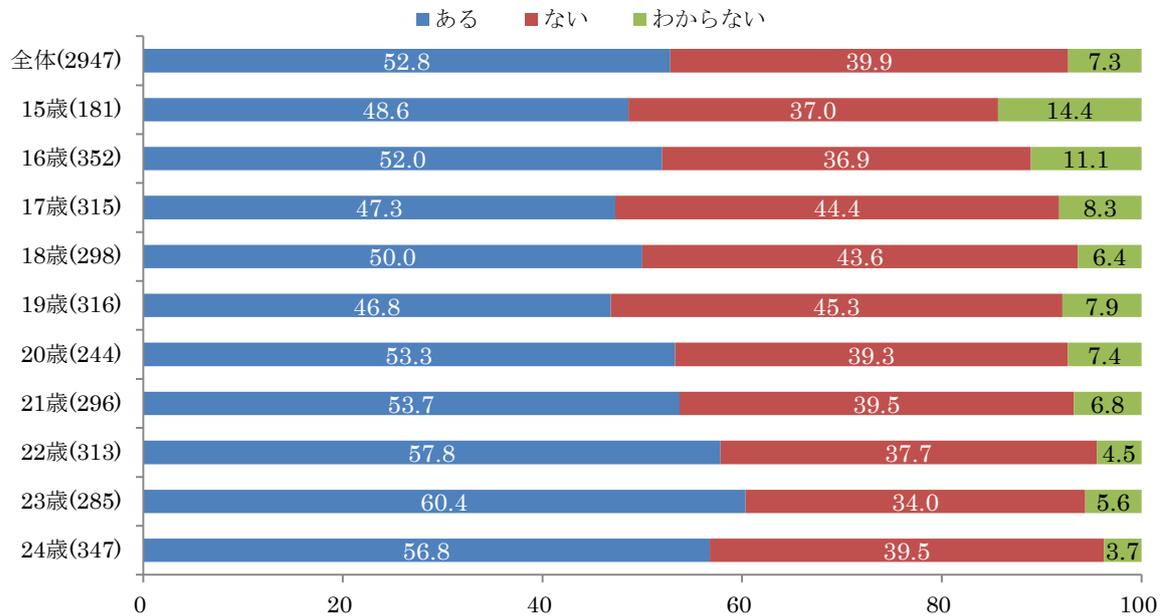


なぜ、現在の政治に満足していない人達の投票参加意欲は低いのであろうか。現在の政治に「やや不満である」人と「大いに不満である」人が選んだ投票に行かない理由を見てみると、いずれも「面倒だから」、「選挙にあまり関心がないから」が多く選択されているが、「大いに不満」としている人は、他の人たちと比べて「選挙によって政治は良くなれないと思うから」(36.7%)、「私一人が投票してしなくても世の中は変わらないから」(29.4%)という政治的有効性感覚に関わる項目を選択した人が多い。

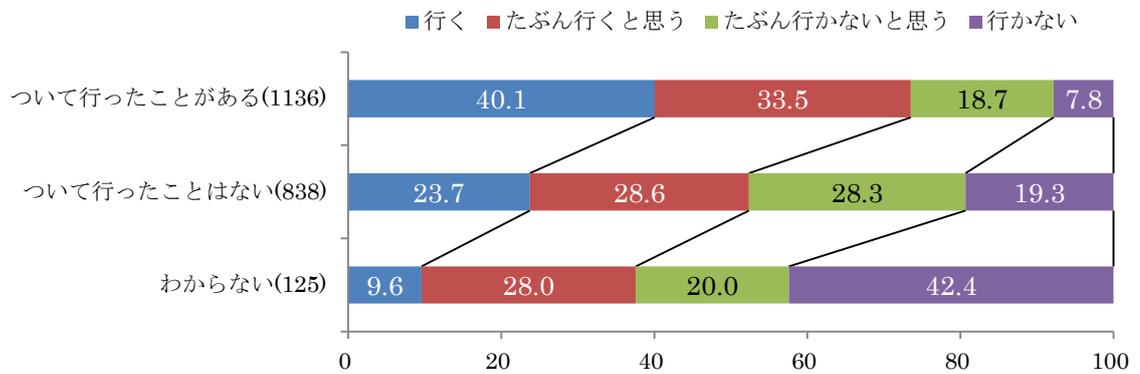
	全体(809)	やや不満・ 行かない(79)	大いに不満・ 行かない(109)
どの政党や候補者に投票すべきかわからないから	23.7	20.3	22.0
選挙結果がどのような影響をもたらすかわからないから	8.2	7.6	7.3
私一人が投票してしなくても世の中は変わらないから	19.8	10.1	29.4
政治がよくわからない者は投票しない方がいい	15.5	13.9	15.6
今の政治を変える必要がないと思うから	2.0	2.5	2.8
選挙によって政治は良くなれないと思うから	21.0	11.4	①36.7
選挙にあまり関心がないから	29.2	②24.1	②33.0
面倒だから	32.0	①32.9	②33.0
その他	12.1	③22.8	24.8

⑪ あなたは、親御さんの投票について行ったことがありますか。

調査対象者全員に尋ねた。全体で 52.8%の人が親と投票所に行ったことが「ある」と回答した。



18歳以上の人について、親と一緒に投票所に行ったことがある人とない人の区分で、今回の参院選への投票参加意欲を見てみると、下図のように投票参加意欲に大きな違いが見られた。幼少期等の体験が自らの投票行動に影響を及ぼしていることが考えられる。

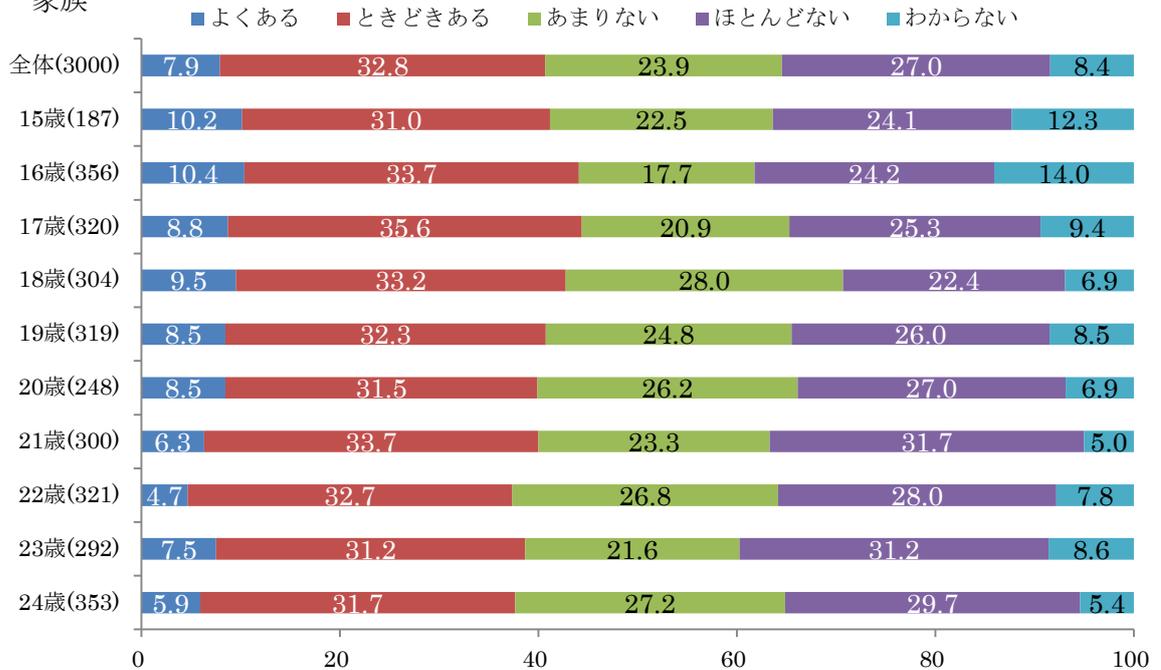


⑫ あなたは、家族、友人と政治の話をすることがありますか。

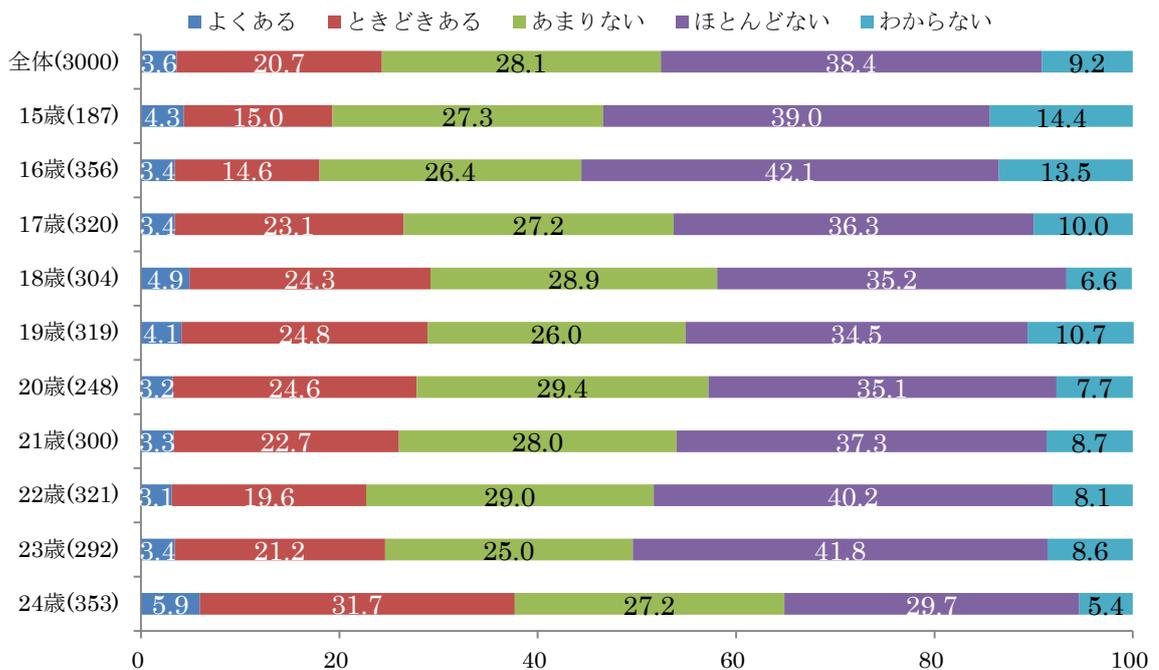
調査対象者全員に尋ねた。家族と政治の話をすることが「よくある」のは 7.9%、「ときどきある」を含めると 40.7%であった。

同じく友人とは「よくある」が 3.6%、「ときどき」を含めても 24.3%にすぎなかった。特に 15・16 歳で友人と政治の話をする人は少ない。

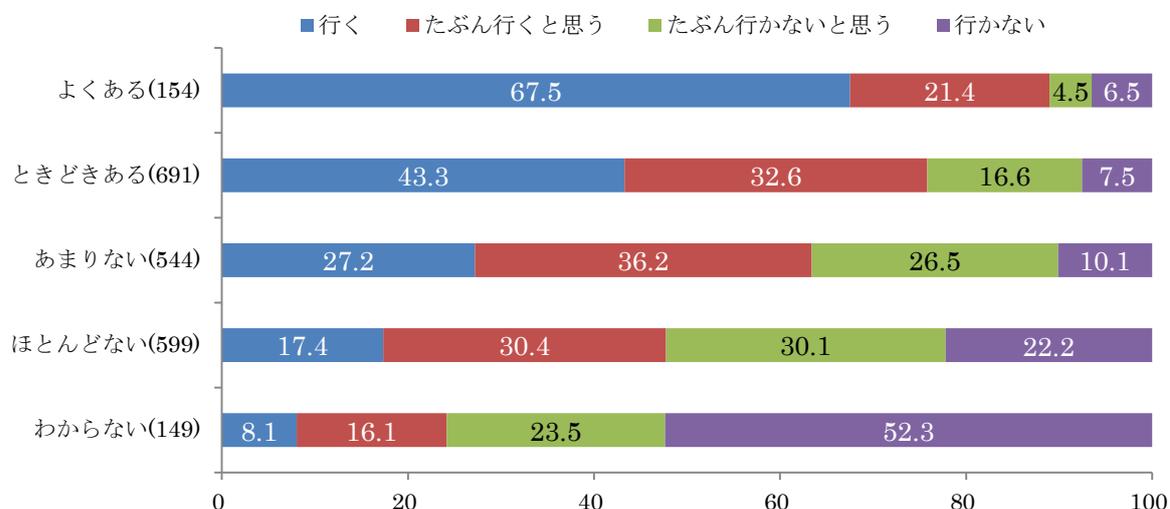
ア 家族



イ 友人

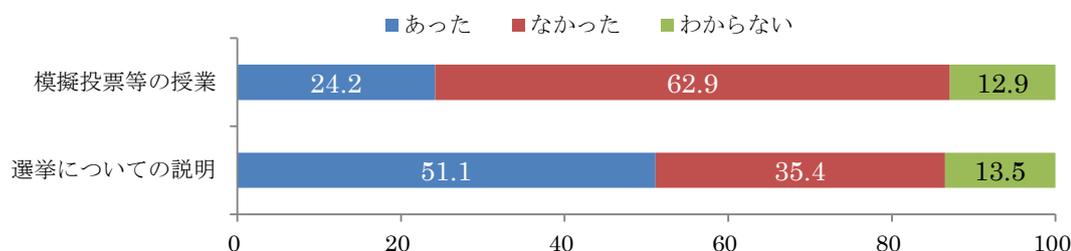


18歳以上の人について、家族と政治の話をするのが「よくある」人、「ほとんどない」人等の区分で、今回の参院選への投票参加意欲を見てみると、下図のように話をする度合いが高いほど投票参加意欲も高かった。これは、友人と政治の話をするがあるか、ないかでみても同様であった。



⑬ あなたの高校では模擬投票や模擬選挙の授業がありましたか、授業や集会等で選挙について説明がありましたか。

18歳以上の人の中で、2016年3月時点で高校生だった人(364人)を対象に尋ねた。授業等で選挙について説明があったと回答した人は51.1%と半数を超えたが、模擬選挙等の授業があったと答えた人は24.2%にすぎなかった。



「模擬投票や模擬選挙の授業があった」人、「模擬選挙はなかったが授業等で選挙の話があった」人、「どちらもなかった」人に区分して、今回の参院選への投票参加意欲を見てみたところ、下図のように、「模擬投票があった」人の参加意欲は他より高かったが、「選挙の説明のみがあった人」と「どちらもなかった人」との間にはあまり違いがなかった。

